

<維持会員> (敬称略)

斐庭 芳江	阿部 泰明	新井 貴美子	新井 宏光	新井 弥生	荒木 明子	荒木 洋子
有泉 登美子	安斎 悅子	安西 淳	安斎 美篠	伊澤 茂	石井 政雄	石井 洋
石川 樹子	石黒 淳子	石原 久夫	石原 友子	伊勢 裕子	市川市洋舞踊協会	市川 寛子
伊藤 慶久	伊藤 和子	伊藤楽器	伊藤 節子	井上 英子	井部 明広	今井 俊一
岩佐 敦子	岩田 三和子	浮ヶ谷 只仁	浮ヶ谷 純子	内田 紗美	宇野 友章	梅田 友男
梅田 恵子	榎本 幸子	大石 秀子	大坂 國彦	大竹 夕力子	大辻 康允	大友 梢子
大西 靖二	大矢 勝實	沖本 正子	小野 百登子	柏木 隆雄	柏崎 初子	加瀬 丈幹
加藤 圭一	加藤 節雄	加藤 輝子	加藤 輝久	禿 雅子	亀井 順子	嘉屋 完子
河島 シゲ子	河田 好雄	川又 京子	神田 春彦	神田 八重子	菊池 克彦	岸 洋子
北方 静	北島 熙子	北角 譲司	北角 明子	木立 義也	木所 高雄	樹下 啓介
木下 洋子	木村 珠美	木村 英樹	久保田 かずこ	久米 英廣	栗原 光栄	桑村 益夫
桑村 和子	小池 征男	小岩井 浩子	香田 光穂	國府濱 敦子	小暮 訓子	越塚 孝雄
越塚 信子	後藤 妙子	小松崎 幸子	小松 紘子	齋藤 稔	坂詰 貴司	坂本 篤信
櫻田 照男	定松 栄一	佐藤 龍雄	佐藤 万佐子	佐藤 俊夫	篠田 要衛	柴田 静治
嶋田 健一	島田 美恵子	白取 博子	進藤 英雄	鈴木 敦子	鈴木 美知代	鈴木 珠美
鈴木 勇	鈴木 政子	関野 とし子	園田 美智子	高木 克則	高階 公恵	高西 園子
高橋 久	高橋 由妃	高安 佐津	武井 敏行	竹内 允	武村 商三	田代 美香絵
立田 光廣	田辺 育	田邊 久美子	谷口 静江	谷口 四郎	中工 登志子	塚越 孝
塚本 恵子	辻本 富子	露木 利次	寺井 誠一	十枝 和宏	土佐 幸	戸田 正昭
内藤 富士子	中西 双葉	中野 裕夫	永野 貞子	中村 フミ子	中村 雄司	中山 秀雄
並木 美智子	南波 みさ子	西川 淳子	西嶋 順幸	西野 薫	西川 美佐緒	二村 直子
野口 道子	野瀬 富美子	荻野 智美	箱田 篤	橋本 昌明	橋本 洋子	長谷川 誠
長谷川 康啓	長谷川 壮司	長谷川 加代子	長谷川 崇之	長谷川 マサ	服部 真知子	服部 素彦
花井 トシ子	林 重利	林 順子	林 正幸	張本 けい子	春田 実章	平野 あおい
平野 迪彦	平間 妙子	藤井 昭宏	藤本 幸温	藤森 典子	船津 節子	堀江 桂爾
前原 敏子	松島 旺子	松延 弘子	丸山 恵美子	丸山 晃司	丸山 周子	三上 副
三上 滋子	御園 雅	見谷 静枝	水上 英子	箕輪 良行	村山 信子	メアリー弘子・ボイド
薬丸 洋秋	谷部 岩松	山内 正晴	山岡 和宏	山崎 悠子	山下 良久	山田 克己
山本 喜相	山本 桂子	山本 晃久	湯井 嘉代子	横塚 和幸	横塚 英子	横山 仁司
横山 真弓	吉井 惣一郎	吉川 陽子	吉澤 濱子	米村 さとみ	渡辺 公子	渡辺 輝子
和田 弘						

<コンサートミストレスの立田祥子さん、第2ヴァイオリントップの武藤敦子さん、
ヴィオラトップの内田綾実さんに聞きました。>



「大編成でやる曲を弦楽器は半分の人数。しかし管楽器は2管編成で人数は変わらない。その内で弦楽器は聞かせ所は頑張らないといけない。またリハーサルデイスタンスをとり、その内でアンサンブルをするなど苦労がありますね。練習再開から1か月半。5か月間私たちはお休みで自宅練習していたのですが、今年は弾くことはないかなとずっと思っていて、初練習の日はさぞかし感動するかなと思ったのですが、弾くことに一杯でした。」

<シューマン2番の最初の練習日に指揮者の大勝先生から「素晴らしい」と褒められたトランペットの田崎真二さんと新井本昌宏さんのお二人にこの曲の思い入れを聞かせてもらいました。>



『シューマンの曲の冒頭はトランペットのピアノで始まりますので、緊張しないように平常心を保つよう努めて吹きます。』
『先生のコメントありましたように、コビッド・ナインティーンで犠牲になられた方への祈りの音楽ということなので少しでもそういう雰囲気で吹きたいです。』

<コロナと今日の定期演奏会で思うこと>

市川交響楽団協会副理事長 星 乘昭

昭和26年の創立以来70年間財政難等で苦しい時が続く中でも、一度も休むことなく412回もの定期演奏会を続けてきました。創立者村上正治先生の音楽が人生に係わる熱い思い、誇りと、不屈の信念を受け継いで、皆さまのご支援の中、演奏会にこぎつける事ができました。それでも市川交響楽団協会が2020年度に開催予定してあった12の演奏会のうち、6つの公演が中止となりました。今日の定期演奏会は7月6日に予定してあった演奏会ですが、今日に延期となった演奏会です。

ドイツのメルケル首相は3月の時点で経済と同じく芸術・文化を重要視すると、述べられました。ヨーロッパの国々は芸術・文化はただ楽しむ娯楽ではなく人生にかかわる問題と位置付けている姿勢が日本との差を感じました。私は今日の演奏会開催にあたって強く思ひだされる映画のシーンがあります。それは映画「タイタニック」の中で、楽団のバンドマスター兼ヴァイオリンニストのハートリーは船が浸水する中、自分たちが一刻も早く避難しなくてはならないのに乗客のパニックを抑えるためメンバーと共に弦楽四重奏の演奏を続ける。船の沈没が加速化する中、沈没寸前まで讃美歌の「主よ御許に近づかん」を演奏し続けた行動です。芸術とは人生、命とともにあることを知りました。

今日の曲目は大勝秀也指揮シューマン作曲交響曲第2番、モーツアルト作曲「イドメネオ」のための5つの舞曲です。コンミスの立田さんが6月23日の出演者調査結果を先生に送信したところ大勝先生から、「この人数ではシューマン2番は無理だと思います」との返信がありました。役員は大騒ぎになりましたが、熱意をもってお願ひした結果お引き受け下さいました。交響曲第2番はシューマンが次第に精神障害に悩まされている中で完成されたと言われています。また、2楽章は演奏者にとって最高難度のテクニックとアンサンブル能力が必要とされ、オーケストラ入団オーデションの課題曲として使われます。

3楽章はバーンスタインが「ピアニッシモの大悲劇」と呼び、見所、聞き所が満載な曲です。

今年度の市川市芸文協のテーマは「今こそ芸術・文化の力を」です。市川交響楽団はこの困難の中であるからこそ実践しました。出演団員はいつもより多くの個人練習を積んでこの記録的演奏会に臨んでいます。どうか気迫あふれた演奏をお聞きください。

<指揮者 大勝秀也先生にインタビュー> インタビュー Vla星 乘昭

○「8月2日に大賀ホールで行われた小林研一郎指揮のレクチャー・コンサートを聞いたのですが、小林氏は今年に入ってから40公演がキャンセルになったと言うことですが、先生も大部影響があったのではないかでしょうか。★『なっていますよ。来年早々から練習を始めるようなオペラとかは、一年前の今月中止が決まりました。来年の8月の公演が再来年の8月に延期が決まりました。今からの準備が出来ないです。』

○「芸術家にとってこのコロナとどう対処したらよいでしょうか」

★『コロナは人の命だし、失業者が増えてこまるので経済を回そうと言った時は我々の業界はその次になる。ですからオンライン公演とか無観客公演とかなんとかやろうとして頑張っています。中止になった、大相撲とか

高校野球とかありますが、中止にしないで出来れば、形を変えてやり続けることは大事なことだと思います。』

○「今回演奏するシューマンですが、故郷曲1番の春、3番のラインが有名ですが、先生は特に交響曲第2番に思い入れがあると伺いましたが」

★『2番は何回も演奏したし、私なりに編曲したり、パート譜などを作つてやってきて、思い入れが強くあります。』

2番は1番3番と比べてあまり演奏されませんが、1番好きな交響曲です。とにかく美しい旋律で、ハ長調でシャープもフラットもついてなくて無垢な感じです。また宗教的な感じもします』

